特別講演 1



変革する整形外科医療と若手医師・理学療法士への期待

北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室

岩崎 倫政

超高齢社会に突入した本邦において、健康寿命の延伸はきわめて重要な社会的課題であり、その実現において運動器外傷や疾患を扱う整形外科医療の果たす役割は今後さらに大きくなることが予想される。日常診療で遭遇する機会の多い変形性関節症、脊椎・脊髄疾患、骨粗鬆症などの運動器疾患は、移動能力や日常生活動作を低下させ、要介護状態に直結する主要因の一つとなっている。そのため、整形外科医療には、単に症状の改善のみならず、社会参加の維持や健康寿命延伸への直接的貢献が強く求められている。

一方、整形外科領域を取り巻く医療環境は、ライフサイエンスおよびテクノロジーの急速な進歩により、大きな変革期を迎えている。診断分野では、ゲノム情報やバイオマーカー解析に基づく疾患予測・個別化医療の発展に加え、画像診断支援を中心とした AI 技術の導入が急速に進んでいる。治療分野においても、robotic surgery やナビゲーションシステムの普及、低侵襲手術技術の進歩、さらには細胞治療や再生医療の本格的な臨床応用など、新たな技術革新が進行している。また、次世代通信技術の発展に伴い、リハビリテーションも含めた遠隔医療の実装も現実的なものとなりつつある。

このような変革の時代において、整形外科医療の将来を担う若手医師および理学療法士には、これまで以上に多様な役割が求められる。高度化する医療技術を理解し活用する能力に加え、多職種連携によるチーム医療の推進、患者個々の状態や価値観に応じた個別化医療の提供など、幅広い視点と柔軟な対応力が必要となる。また、AI やデジタル技術が発展する時代だからこそ、患者に寄り添い、信頼関係を構築する姿勢の重要性もさらに高まると考えられる。

本講演では、整形外科医療を取り巻く現状と今後の発展性について概説し、その中で若手医師および理学療法士に求められる役割や将来像について、整形外科医の立場から言及する。

略歴

1988 年　旭川医科大学医学部医学科卒業
1988 年　北海道大学医学部整形外科教室入局
1994 年　北海道大学大学院入学
1994 年　米国ジョンズ・ホプキンス大学整形外科留学
1998 年　北海道大学大学院修了（医学博士学位取得）
2000 年　北海道大学大学院運動器再建医学分野助手
2004 年　北海道大学病院整形外科講師
2010 年　北海道大学大学院整形外科学分野准教授
2012 年　北海道大学大学院整形外科学教室教授
　　現在に至る